

くを云、

〔倭名類聚抄屏十四障具〕障子 漢語鈔云障子屏風之屬也

〔白氏文集律三十四〕題謝公東山障子○詩略

〔朱氏談綺居處下〕格子 シヤウジ

〔鹽尻十八〕一或人曰唐にも我國のごとき障子ありやと、曰牕の字則玄やうじの事なり、

〔伊呂波字類抄地志儀〕障子シヤウジ 〔同志雜物〕障子シヤウジ

〔八雲御抄雜物三下〕障子 玄とろ 覆入鹿非吉事

〔撮壤集家中屋〕障子

〔藻鹽草居六所〕障子

玄とろ覆入鹿非吉事と八雲御説此儀前内府西殿へ尋申處に、佐伯連子麻呂稚犬養連綱田斬入
也、玄やうじ是近代よとりの玄やうじ通入障子也、紫宸殿御後、七廻中間障子の名也、

〔夏山閑話一〕障子と云は、絹にてはり、繪など書たるを云也、賢聖の障子の類なり、今いふからかみ

ふすまのごとし、俗にせうじといふは、あかり障子の事也、

〔貞丈雜記家作十四〕一障子と云は、厚く裏表より張りて、或は繪など畫き、或はからかみにてはりたる

をば、襖障子と云、又薄き紙、又は生絹などにてはりたるをば、あかり障子といふ也、障子と云は總

名也、間々を障へへだつる物なる故、障子と云也、

〔江談抄四〕古渡南横迷遠水 秋山西繞似屏風江佐國

又被命云、一昨日江都督被申云、江佐國淳和院眺望詩、上句無其謂、予所案得寒樹東横應障日、此

句今案如何云々、但東字下字未思障子者、本障日也、然則其對可謂叶略下

〔空穗物語嵯峨の院三〕御帳のうちそのへんをめぐりてみ給へば、藏人の少將なをしすがたにて、